

公演プログラム

(第一部)

1番 舞の降ろし

本宮の引治龜山天満宮で秋の大祭を行う十月一日二日の二日間行います。

この時最初に舞う、神々を地上に招き降ろす舞です。

2番 奉幣 (ほうへい) あめのみなかぬしのかみ

天 御 中 立 神

天と地が二つに分かれたとき天に在る高天原（たかまがはら）に、最初に出現したのがこの神様です

※天御中（あめのみなか）とは天の中心的な存在の意味とするものです

5番 御幣 (みてぐら) とようけひめのかみ

豊 受 姫 神

玖珠神楽で、数少ない姫神楽の一つです。所作（しぐさ）や、面（おもて）は老女ではないかと言われています。

※豊受姫神（とようけひめのかみ）は、土地の神様です。

別言（豊宇気毘売神）宇気（うけ）は食物を意味している。

天照大神の食事を専門に受け持つ神

6番 百穀の枕 (ひゃっこくのつえ)

この舞より五穀成就の舞となります。天冠をかぶり、手には花杖を持って舞います。

14番 建素戔鳴命 (たけすさのうのみこと)

手に持って舞う板状のものは剣をあらわしています。この剣も、かなり古いものと推察されます。

(第二部)

19番 思兼命 (おもいかねのみこと)

神話に出てくる神様で、大変思慮深い神様とされています。

玖珠神楽の、クライマックスであります、岩戸開きの序盤となる舞です。

※思兼命（おもいかねのみこと）は大変思慮深い神様で天照大神が天の岩戸に隠れたとき神々がその対応策を検討した。その時、八百万の神様に知恵を出すよう依頼したとされています。

30番 猿田彦命 (さるたひこのみこと)

29番 天之売素女命 (あめのうずめのみこと)

33番 萬々歳 (ばんばんぜい)

神 修 (かみおさめ)



玖珠神楽の郷演

日時 令和7年1月21日

開演 第1部 13:35

第2部 14:35

場所 九重文化センター

入場無料

舞

九重町自主文化事業

主催 九重町教育委員会



玖珠神楽の沿革と見所

○沿革

玖珠神楽は、九重町教育委員会が昭和五十六年に発刊した調査報告書によると、今より六百年前という説と、江戸時代初期 享保五年一七二〇年今より約四百年前高千穂より伝わったと言う説が考えられています。

どちらも、古文書や、豊後国史に記載されているものより抽出してこうであろうということで、言い伝えられている訳ですが、後者の享保五年という説では、具体的に高千穂より伝えられたと言うことが、記されているようです。

しかし、実際に神楽社で高千穂の地に赴き玖珠神楽との比較をしてみると共通する点が極めて少なく、その違いをあらためて感じさせられました。

また、豊後・及び豊前の各地の神楽社との交流の中などで、他地区の神楽を見るのですが、その舞やそのストーリーなど共通するところが少ないように感じています。

しかし、原点は日向形ではないかとの見方は非常に強いのですが、実際には未だわかっていないのが現状です。

このような希少な神楽を、これからも伝えていきたいと考えています。

○舞について

玖珠神楽の舞は他の神楽と異なり土臭さがなく、物腰の柔らかさ、優美さを示し典雅で気品のある古典的な舞を受け継いでいます。そのため着面の演目は多いが多くは一神舞の連続といった形になっており、演劇的な要素が入っていません。演目に「神歌」はありますが、二人舞以上の演目においても「問答」や格別の所作は見られず、直面(ひためん)の舞にもストーリーがありません。

19番の「思兼命」から33番の「万々歳」までが岩戸神楽で豊磐窓命・串磐窓命は県内の他の岩戸神楽には見られない演目です。

「万々歳」から最終の「神修め」は、手力男命が天岩戸より天照大神をお迎えし神前に修める玖珠神楽独特の神楽です。



先人より伝えられた玖珠神楽は昭和41年に大分県指定重要無形民俗文化財に指定されました。玖珠神楽社の楽人一同、現在伝えられるこの神楽を将来へつなぐことが役割と考えています。

玖珠神楽 33番々付

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1 番 舞い降りし | 1 8 番 ミ々九度 (さんさんくど) |
| 2 番 奉幣 (ほうへい) | 1 9 番 思兼命 (おもいかねのみこと) |
| 3 番 相舞 (あいまい) | 2 0 番 神祇舞 (じんぎまい) |
| 4 番 扇舞 (おおぎまい) | 2 1 番 日影 (ひかげ) |
| 5 番 御幣 (みてぐら) | 2 2 番 神素戔鳴命 |
| 6 番 百穀の杖 (ひゃっこくのつえ) | (かみすさのうのみこと) |
| 7 番 百穀の稲 (ひゃっこくのいね) | 2 3 番 方位 (ほうい) |
| 8 番 大己貴命・大国主命 (おおなむちのみこと) | 2 4 番 王位 (おうい) |
| (おおくにぬしのみこと) | 2 5 番 港田 (みなとだ) |
| 9 番 経津主命 (ふつぬしのみこと) | 2 6 番 八鉢 (やつばち) |
| 1 0 番 弓立 (ゆみたち) | 2 7 番 十二鬼 (じゅうにき) |
| 1 1 番 鬼 (おさき) | 2 8 番 大倭舞 (やまとかぐら) |
| 1 2 番 結解 (けっかい) | 2 9 番 天之売素女命 |
| 1 3 番 弊手力 (へいたちから) | (あめのうずめのみこと) |
| 1 4 番 建素戔鳴命 (たけすさのうのみこと) | 3 0 番 猿田彦命 |
| 1 5 番 五穀舞 (ごこくまい) | (さるたひこのみこと) |
| 1 6 番 手草 (たぐさ) | 3 1 番 豊磐窓命 |
| 1 7 番 折敷舞 (おしきまい) | (とよいわまどのみこと) |
| | 3 2 番 串磐窓命 |
| | (くしいわまどのみこと) |
| | 3 3 番 萬々歳 (ばんばんぜい) |
| | 神修 (かみおさめ) |